

平成 20 年 11 月 23 日 FS

2008 年 10 月版「モニタリングマニュアル(DRAFT)」(pdf 版)へのコメント一覧*
List of the Comments to the DRAFT Monitoring Manual (Oct 2008 version)

注釈の一覧 :モニタリングマニュアル_注釈記入済み FS_081123.pdf

ページ :1¹⁾

作成者 :Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 :2008/11/23 18:45:44

とても豊富な資料が含まれていて、素晴らしい成果であると思いますが、いくつか、注釈を加えました(3、4、7、10、11、13 ページ)。

本書が平成 21 年 3 月までの第 3 年次業務中の成果であり、平成 21 年 4 月から 7 月までの第 4 年次²⁾成果品としてまとめられる最終マニュアルではないとはいえ、特に、3、7、13 ページの注釈は、ご勘案ください。

1) 筆者注 : ここでいう「ページ」とは、表記ドラフト原稿(pdf 版)のノンブルである(以下同じ)。

2) 筆者注 : 正確には、第三年次

ページ :3

作成者 :Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 :2008/11/23 17:20:51

「3 年目」と明記するのであれば、3 年目であること「最終年度のとりまとめ」「地域の特性をいっそう発揮させた指導書改善」「次の発展につなげる」など、明瞭に記述されていなければならない。この「3 年目」は不必要と思う。

作成者 :Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 :2008/11/23 16:23:51

「それぞれ」というのは、「確認、分析、評価」をさすと理解される。しかし、「・・・の段階に基準をつけて」となると、例えば「確認の段階に基準をつけて」という意味に解することができる。・・・「確認の段階」とは何か? 分析の段階とは何か? 評価の段階とは何か????

つまり、「確認、分析、評価の活動」は誤りで、むしろ、「授業の導入、展開、まとめ」とか、あるいは OSIA にあるように、「授業の内容、運営、評価」とすべき。その結果、例えば、前者を採用すれば、「授業の導入、展開、まとめに関する教師の活動及び児童生徒の活動について授業観察を行い、分析を行う活動」とすべきであろう。

作成者 :Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 :2008/11/23 16:06:14

マネジメントとは?? モニタリングフォームの書き方のこと?

作成者：Mr F SHINOHARA タイトル：ノート注釈 日付：2008/11/23 16:07:34
指導法??? 「モニタリングの方法」のこと?

ページ :4

作成者：Mr F SHINOHARA タイトル：ノート注釈 日付：2008/11/23 16:38:22

モニタリングとは、第3ページ冒頭「モニタリング」の意味で記したことから、その意義は、本項目の以下に示されているような「指導書の内容が学校の状況または必要性に応じているか」「教員が指導書を理解しているか」などではない。これらは第二義的である。

モニタリングの第一の意義は「モニタリングを行うことによって、学校及び地域の教員を含む教育関係者が、目的にそって組織的かつ計画的に授業を改善し、教育を改善できる。」である。ただし、本プロジェクトの目的としては、「指導書云々」についての記述は重要である。

しかし、いつまでも、指導書に頼った授業あるいは指導書に頼った教育改善が、教師及び教育関係者に求められるわけではないし、また、本プロジェクト終了後においては、モンゴル側が必要に応じて指導書を作成できることが求められているはずである。

作成者：Mr F SHINOHARA タイトル：ノート注釈 日付：2008/11/23 16:42:39

これは、極めて、本プロジェクトデペンデントである。

本「モニタリングマニュアル」を本プロジェクトに限定するのであれば、この記述はあっても良いと思うが、上記注釈に示したように、いつまでも「指導書」に頼った授業や教育改善を求めている印象はぬぐえなくなる。

作成者：Mr F SHINOHARA タイトル：ノート注釈 日付：2008/11/23 16:43:09

上記注釈と同じく、本「モニタリングマニュアル」を本プロジェクトに限定するのであれば、この記述はあっても良いと思うが、上記注釈に示したように、いつまでも「指導書」に頼った授業や教育改善を求めている印象はぬぐえなくなる。

ページ :7

作成者：Mr F SHINOHARA タイトル：ノート注釈 日付：2008/11/23 18:41:53

ここの記述は、本プロジェクトと関連はなく、一般的で重要な記述である。

したがって、「モニタリングで何をするか」の項で注釈したことを考えると、本書の内容を、プロジェクトデペンデントな部分と、一般的な部分と、明確に分けて記述できると良い。（「モンゴル特記仕様書」(P.13)によれば、プロジェクト終了後の体制について触れている。このことは、本書が「プロジェクトデペンデント」ではないことを示唆しているのではないと思われる。）

したがって、例えば、本書注記として欄外に、一般的なことを追記するとか、あるいは、

逆に、本プロジェクトデペンデントなことを欄外に記す工夫をすることが考えられる。

ページ :10

作成者 : Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 : 2008/11/23 16:55:18

「第三年次」モニタリングマニュアルといっても、この記述は、欄外に「注記」とすべき。

ページ :11

作成者 : Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 : 2008/11/23 17:04:01

このプロトコルを記入することは、たとえ以下に記述されているように、役割を決め
ても、無理である。もともとこの用紙が開発された背景には、観察の観点がカテゴリー化
及び記号化されていることが重要である（参考、OSIA あるいは、FLANDERS の授業分析
法）。

むしろ、この D はもっと簡略化することに努め（例えば、導入は適切か、展開の前半は？
まとめは？等々）、「プロトコル」は、後日ビデオ撮りしたテープを使って、必要に応じて
使用されるべき。

作成者 : Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 : 2008/11/23 17:05:52

これはDシートではできない

作成者 : Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 : 2008/11/23 17:05:33

無理である。これは、実際に分析をしたことのない者が記述している！

ページ :13

作成者 : Mr F SHINOHARA タイトル : ノート注釈 日付 : 2008/11/23 17:09:57

発達段階を標榜する本プロジェクトあるいは「学習者主体教育」(Child-Centered
Approach) では、「正しい」「正しくない」「誤り」ではなく、「発達段階にふさわしい」「発
達段階にふさわしくない」とすべきである。

以上

*) 本文書は、平成 20 年 10 月筆者をはじめプロジェクト関係者に送付されコメントを求め
られた表記「モニタリングマニュアル」の DRAFT 版に対し、筆者が担当者あて送付した
pdf 文書内に記述した「コメント」部分のみ抽出し、一覧としたものである（篠原記）